2024年11月期 決算説明会

株式会社ラクト・ジャパン

2025年1月

INDEX

01 2024年11月期 連結業績および2025年11月期 連結業績予想

02 資本コストや株価を意識した経営に向けて

03 株主・投資家との対話

04 2024年11月期 事業の概況

05 事業環境　～乳原料販売の事業環境～

06 2025年11月期 部門別の取組み

07 中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の進捗状況

© Lacto Japan Co., Ltd.

01 2024年11月期 連結業績 および2025年11月期 連結業績予想

© Lacto Japan Co., Ltd.

- 売上高、経常利益、当期純利益とも前期実績、修正予想を上回り増収増益。過去最高を更新
- 経常利益、当期純利益は中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の最終年度目標を前倒しで達成

（単位：百万円）

	2023.11期	期初予想 2024/1/12 公表	修正予想 2024/7/12 公表	2024.11期 実績	前期比 (%)	期初予想比 (%)	修正予想比 (%)	
売上高	158,328	160,000	164,000	170,907	+7.9	+6.8	+4.2	POINT ❶
経常利益	2,847	3,400	4,100	4,320	+51.7	+27.1	+5.4	POINT ❷
経常利益率（%）	1.8	2.1	2.5	2.5	–	–	–	
経常利益に含まれる為替影響額※	(△59)	–	–	(△71)	–	–	–	
為替影響額修正後経常利益	(2,907)	–	–	(4,392)	(+51.1)	–	–	
親会社株主に帰属する当期純利益	2,048	2,400	3,000	3,146	+53.6	+31.1	+4.9	
当期純利益率（%）	1.3	1.5	1.8	1.8	–		–	
１株当たり当期純利益(円)	206.46	241.06	301.13	315.83				
為替レート(円/USD)	139.80	–	–	150.77				
為替レート(円/EUR)	150.80	–	–	163.63				

（注）財務数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しております。

※経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。
そのため売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております。

主な増減ポイント

売上高：前期比増収

❶国内事業、アジア事業ともすべての部門において販売数量が増加し、売上高は前期を上回り、修正想定も上回る着地となった。

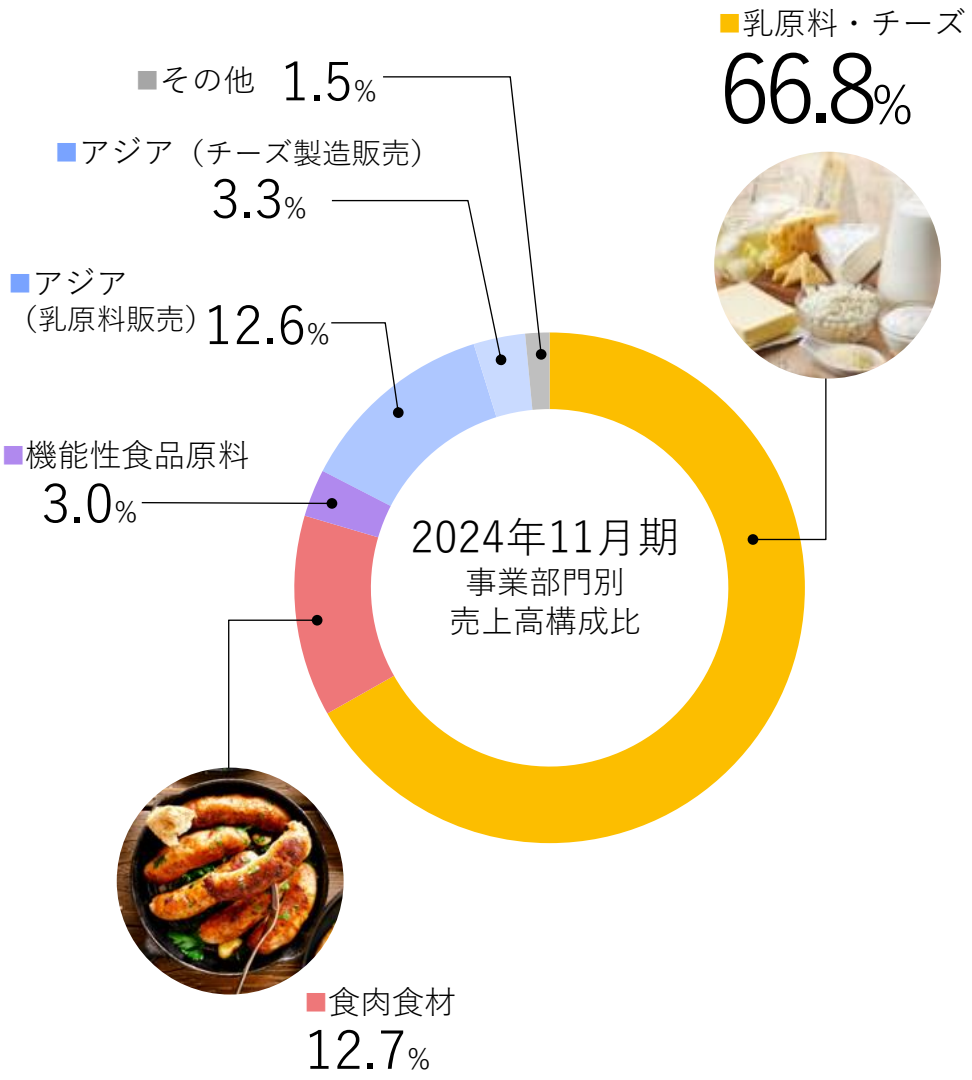
経常利益：前期比増益

❷国内事業では、主に乳原料・チーズ部門において利益率の高い商品の比率が増加したことにより増益。

アジア事業では、乳原料販売部門、チーズ製造販売部門とも販売数量の増加と利益率改善により増益。
特に、チーズ製造販売部門の原料価格低下、製造効率改善による効果が顕著であった。

© Lacto Japan Co., Ltd.

2024年11月期　事業部門別売上高および販売数量（前期比）



乳原料・チーズ部門

売　上　高	114,182百万円	前期比	2.1%増
販売数量	176,402トン	前期比	5.4%増

食肉食材部門

売　上　高	21,788百万円	前期比	19.3%増
販売数量	31,831トン	前期比	13.2%増

機能性食品原料部門

売　上　高	5,141百万円	前期比	31.2%増
販売数量	4,199トン	前期比	49.6%増

アジア事業（乳原料販売部門）

売　上　高	21,584百万円	前期比	14.1%増
販売数量	39,728トン	前期比	6.6%増

アジア事業（チーズ製造販売部門）

売　上　高	5,594百万円	前期比	15.9%増
販売数量	5,422トン	前期比	12.3%増

その他

売　上　高	2,616百万円	前期比	380.2%増

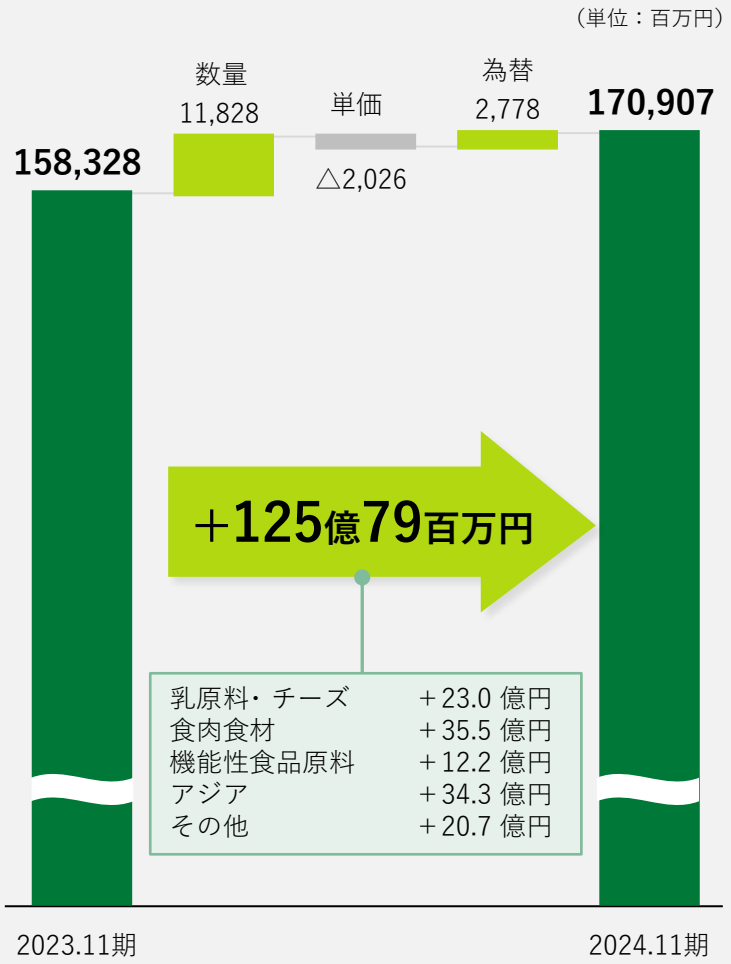
（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は端数切捨て。増減率は四捨五入しております。

© Lacto Japan Co., Ltd.

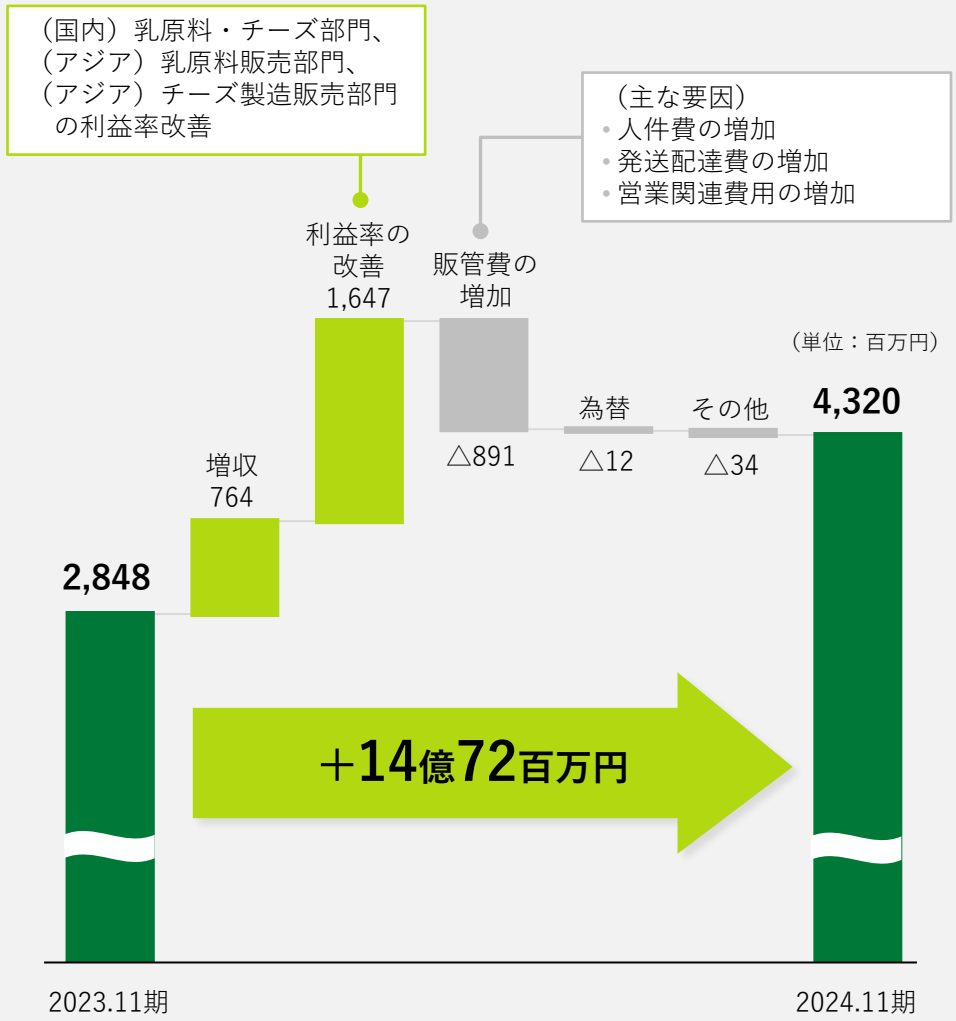
売上高および経常利益の増減要因

- **売上高：主に販売数量の増加により前期比増収**
- **経常利益：増収効果に加え、利益率の改善が寄与**

売上高



経常利益



（注）売上高・経常利益の増減の内訳：　単位以下の端数は四捨五入

© Lacto Japan Co., Ltd.

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2023.11月末	2024.11月末	増減額	
流動資産合計	**67,068**	**75,826**	**8,758**	
現金及び預金	7,779	9,076	1,297	
受取手形及び売掛金	18,700	24,028	5,328	POINT ❶
棚卸資産	39,806	42,119	2,313	POINT ❷
流動資産その他	782	601	△180	
固定資産合計	**4,969**	**5,608**	**638**	
有形固定資産	2,185	2,502	317	
無形固定資産	73	321	247	
投資その他の資産	2,710	2,785	74	
資産合計	**72,038**	**81,435**	**9,397**	
買掛金	14,033	17,212	3,178	POINT ❸
有利子負債	31,518	33,435	1,916	
負債その他	1,763	3,206	1,443	
負債合計	**47,314**	**53,853**	**6,539**	
純資産合計	**24,724**	**27,581**	**2,857**	
負債純資産合計	**72,038**	**81,435**	**9,397**	

（財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載）

（注）当社の棚卸資産は原則、販売に紐づいており、当社は自社で在庫を抱えるリスクは負っておりません。

主な増減ポイント

受取手形及び売掛金／棚卸資産の増加

❶❷食肉食材部門、機能性食品原料部門の仕入単価上昇、および商売の拡大による契約数量の増加。

買掛金の増加

❸国内事業における契約数量の増加に伴う仕入債務の増加。

※なお、受取手形及び売掛金、買掛金の増加については、当期末が休日だったことによる影響も含む。

© Lacto Japan Co., Ltd.

（単位：百万円）

	2024.11期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	636	POINT ❶
投資活動によるキャッシュ・フロー	△596	POINT ❷
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,101	POINT ❸
現金及び現金同等物に係る換算差額	96	
現金及び現金同等物の増減額	1,237	
現金及び現金同等物の期首残高	7,282	
現金及び現金同等物の期末残高	8,520	

（注）財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載

主な増減ポイント

営業CF

❶売上高の増加に伴い運転資本（売上債権・棚卸資産）が増加するも、税引等調整前当期純利益の増益により営業CFはプラス。

投資CF

❷シンガポール新工場関連投資および新システム開発費用の先行投資の増加により投資CFマイナス。

財務CF

❸運転資本の増加に伴う短期借入金(CP)の増加により財務CFプラス。

© Lacto Japan Co., Ltd.

● 事業環境の改善継続により国内事業、アジア事業ともに、販売数量増による増収・増益を見込む。

（単位：百万円）

	2024.11期 実績	2025.11期 予想	前期比増	前期比（%）	
売上高	170,907	180,000	+9,092	+5.3	POINT ❶
経常利益	4,320	4,600	+279	+6.5	POINT ❷
経常利益率（%）	2.5	2.6	–	–	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,146	3,300	+153	+4.9	
当期純利益率（%）	1.8	1.8	–	–	
1株当たり当期純利益（円）	315.83	331.38	+15.55		
1株当たり配当金（円） 年額	80.00	100.00	+20.00		
中間	31.00	50.00	+19.00		POINT ❸
期末	49.00	50.00	+1.00		

（注）財務数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しております。

業績予想の前提

❶乳原料・チーズ部門において輸入乳製品への需要回帰を想定（脂肪系乳原料や高たんぱく原料）。

機能性食品原料部門において、プロテイン製品原料の販売の好調継続と、他の機能性原料の拡販を想定。

アジア・乳原料販売部門では、日本向けの調製品原料ビジネスの回復と現地向け販売の増加に期待。また、アジア・チーズ製造販売部門は引き続き外食向けを中心としたチーズの拡販などを見込む。

❷経常利益は、増収に伴う利益拡大を想定。

❸株主還元強化のため、増配を予定。配当性向30%の達成を目指す。

© Lacto Japan Co., Ltd.

部門別売上高

（単位：百万円）

	2023.11期					2024.11期					2025.11期
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期予想
乳原料・チーズ	**27,594**	**29,196**	**26,367**	**28,687**	**111,845**	**28,124**	**30,807**	**28,577**	**26,672**	**114,182**	**119,600**
前年同期比	25.3%	16.0%	4.8%	8.4%	13.2%	1.9%	5.5%	8.4%	△7.0%	2.1%	4.7%
食肉食材	**4,063**	**4,933**	**4,416**	**4,854**	**18,268**	**5,111**	**5,427**	**5,801**	**5,447**	**21,788**	**22,000**
前年同期比	15.1%	33.7%	19.2%	15.4%	20.7%	25.8%	10.0%	31.3%	12.2%	19.3%	1.0%
機能性食品原料	**625**	**961**	**1,142**	**1,188**	**3,917**	**744**	**863**	**1,408**	**2,124**	**5,141**	**7,600**
前年同期比	93.2%	65.5%	155.3%	64.8%	89.0%	19.1%	△10.1%	23.3%	78.8%	31.2%	47.8%
アジア（乳原料販売）	**5,248**	**5,316**	**3,534**	**4,823**	**18,922**	**4,207**	**5,523**	**5,727**	**6,125**	**21,584**	**24,300**
前年同期比	9.7%	△29.1%	△50.4%	△33.6%	△29.1%	△19.8%	3.9%	62.1%	27.0%	14.1%	12.6%
アジア（チーズ製造販売）	**1,087**	**1,158**	**1,226**	**1,355**	**4,828**	**1,264**	**1,414**	**1,460**	**1,454**	**5,594**	**6,800**
前年同期比	16.3%	29.9%	15.2%	24.1%	21.2%	16.3%	22.0%	19.0%	7.3%	15.9%	21.5%
その他	**126**	**137**	**192**	**88**	**544**	**267**	**801**	**642**	**905**	**2,616**	**2,700**
前年同期比	△20.3%	△29.1%	△3.0%	△52.0%	△25.9%	111.9%	481.1%	233.9%	923.5%	380.2%	3.2%
売上高合計	**38,745**	**41,704**	**36,880**	**40,997**	**158,328**	**39,720**	**44,839**	**43,618**	**42,729**	**170,907**	**180,000**
前年同期比	22.0%	9.7%	△2.2%	2.7%	7.4%	2.5%	7.5%	18.3%	4.2%	7.9%	5.3%

（数値の表示は端数切捨て）

（注）2025.11期 通期予想の売上高合計には、連結調整額△3,000百万円が含まれています。

© Lacto Japan Co., Ltd.

部門別販売数量

（単位：トン）

	2023.11期					2024.11期					2025.11期
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期予想
乳原料・チーズ	**40,578**	**44,757**	**39,464**	**42,622**	**167,421**	**45,583**	**45,515**	**43,043**	**42,259**	**176,402**	**177,400**
前年同期比	△13.2%	△10.0%	△11.6%	1.8%	△8.5%	12.3%	1.7%	9.1%	△0.9%	5.4%	0.6%
食肉食材	**6,005**	**7,872**	**6,957**	**7,289**	**28,125**	**7,766**	**8,076**	**8,302**	**7,685**	**31,831**	**32,000**
前年同期比	0.0%	29.2%	13.5%	11.3%	13.5%	29.3%	2.6%	19.3%	5.4%	13.2%	0.5%
機能性食品原料	**409**	**722**	**736**	**938**	**2,806**	**584**	**683**	**1,170**	**1,761**	**4,199**	**5,800**
前年同期比	61.1%	67.0%	134.8%	65.3%	79.0%	42.7%	△5.4%	58.9%	87.7%	49.6%	38.1%
アジア（乳原料販売）	**10,374**	**10,713**	**6,390**	**9,772**	**37,251**	**8,286**	**10,232**	**10,352**	**10,857**	**39,728**	**48,700**
前年同期比	△9.0%	△29.3%	△48.3%	△15.2%	△26.1%	△20.1%	△4.5%	62.0%	11.1%	6.6%	22.6%
アジア（チーズ製造販売）	**1,154**	**1,214**	**1,172**	**1,286**	**4,827**	**1,228**	**1,307**	**1,353**	**1,532**	**5,422**	**6,300**
前年同期比	△7.9%	12.1%	△5.7%	6.6%	0.8%	6.4%	7.6%	15.5%	19.2%	12.3%	16.2%

（数値の表示は端数切捨て）

© Lacto Japan Co., Ltd.

02 資本コストや株価を意識した経営に向けて

© Lacto Japan Co., Ltd.

- 2024年11月期は株価が大幅に回復、PBRは1倍を超えた。

- 現状のPERは、コロナ禍前の水準や、東証プライム市場の業種平均（卸売業）と比較して低水準であるが、事業環境の改善や新規ビジネスの順調な進展などにより利益は着実に伸びていることから、上昇余地はあると認識。

- ROEは直近期末時点で12.1%と前期比で大幅に改善した。今後も事業の利益率改善と株主還元の強化により、レベルアップを目指す。具体的な取組みとして前期より部門の経営管理指標にROICを導入しており、バランスシートの効率性も意識しながら事業の収益性向上を目指す。

	2019.11期	2020.11期	2021.11期	2022.11期	2023.11期	2024.11期
ROE（%）	13.0	12.3	10.6	10.9	8.7	**12.1**
PER（倍）	17.57	14.05	11.75	9.16	9.45	**9.13**
PBR（倍）	2.17	1.66	1.18	0.94	0.79	**1.04**
期末株価（円）	3,515	2,943	2,336	2,121	1,951	**2,882**

© Lacto Japan Co., Ltd.

	課題	取組み
ROE向上	利益率を重視した販売戦略の実行	• 部門の管理指標としてROICを導入。社内の意識改革は徐々に進展。今期は人事評価や事業判断の指標としても活用する方針。
	高付加価値ビジネスの拡充	• アジア・チーズ製造販売部門の事業の拡大（原価率の改善／販売数量の増加） • 機能性食品原料の取扱い増加 • 中長期的な課題として、事業ポートフォリオの強化に取り組む方針
	サプライチェーンの要所への深い関与	• サプライヤーとの連携強化による特別規格品の開発を強化 • サステナビリティ経営の推進
	成長分野への投資	• アジア・チーズ製造販売部門において、シンガポールに新工場を建設（移転）
	株主還元の強化	• 配当性向の向上を実現。今後もさらなる向上を目指す。 （2023.11期：23.2%　→　2024.11期：25.3%　→　2025.11期（予）：30.2%）
PER向上	成長期待の醸成	• 成長に向けた明確な戦略の提示（次期、中期経営計画公表予定）
	株主・投資家との対話の強化による信頼の獲得	• 役員報酬におけるKPIの見直し • 人員拡充によりIR体制を強化（2025.11期～）、投資家との対話機会の拡充
	情報発信の拡充	• 統合報告書やHPの掲載情報充実 • 英文情報開示の拡充

© Lacto Japan Co., Ltd.

03 株主・投資家等との対話

© Lacto Japan Co., Ltd.

現状は主に国内の投資家を対象に定期的に対話を実施

主なイベント

※2024年11月期実績

活動	イベント・詳細		対応者
機関投資家向け	決算説明会（本決算・第２四半期）	2回	代表取締役社長、取締役副社長（IR広報管掌）
	個別面談対応（主に国内機関投資家）	上期：54 件 下期：61 件 ※対応件数の延べ数	取締役副社長（IR広報管掌）、IR広報部長
	スモールミーティング（証券会社）	3回	取締役副社長（IR広報管掌）、IR広報部長
	SR面談（主に国内機関投資家）	10件	取締役副社長（IR広報管掌）、IR広報部長
個人投資家向け	個人投資家説明会	2回	代表取締役社長

対話の主なテーマ

① 直近の業績動向と事業環境について

- 業績の進捗状況（期初想定との差異、通期見通しに対する進捗）
- 事業環境の変化の状況、国内の脱脂粉乳在庫の状況および今後の見通し
- アジアの事業環境と事業展開の状況

② 中期的な成長戦略について

- 主要事業と注力する事業の成長に向けた取組み
- 投資計画（シンガポール新工場の進捗状況）
- 財務戦略の考え方
- 株主還元方針

③ サステナビリティへの取組みや関連情報の開示について

- サクセッションプランの進捗（コーポレートガバナンス関連）

© Lacto Japan Co., Ltd.

株主・投資家等との対話の内容（主要な対話の事例）

株主・投資家等からの質問・意見	当社回答の概要
事業環境の変化の状況について	需要面では業務用を中心に国内の乳製品原料に対する需要が回復傾向となった。供給面では円安基調ではあったものの、乳製品原料の国際相場の落ち着きや、日本市場で課題となっていた国産脱脂粉乳の過剰在庫問題が解消に向かったことで、輸入原料に対する需要が回復した。
株主還元方針について、配当性向の向上を目指してほしい	株主還元は経営の最重要課題と認識している。成長と還元のバランスを考えつつ、配当性向の向上を目指している。今期は業績好調のため、株主還元も積極化し期中に増配を決定。配当性向は中期経営計画の目標であった25％を前倒しで達成する見込み。 今後もスタンスは変わらず、配当性向もさらに向上を目指す考え。
サクセッションプランの進捗状況	指名・報酬諮問委員会では、執行役員や管理職（部長職）へのインタビューを実施し、その情報も参考にしながら委員会で議論を重ねている。また、その内容は取締役会にも主要な情報が共有されている。
シンガポールのチーズ製造販売事業における新工場への移転について	アジア・チーズ製造販売事業の拡大は当社グループの成長戦略において重点施策の一つである。新工場は2026年11月期からの稼働を目指し、順調に準備を進めている。
ROICを意識した経営について（取組み内容および進捗状況）	経営管理指標として部門別のROICを導入する。今期（2024年11月期）よりROICを算出し、収益性に関する現状を把握。各部門と課題認識の共有のための議論を開始した。来期（2025年11月期）からは、事業部門ごとの戦略策定および人事評価にROICを活用していく方針で準備を進めている。 全社員を対象にROICに対する理解浸透を目指し、勉強会なども実施している。

© Lacto Japan Co., Ltd.

- **株主・投資家等との対話に際していただいた意見に対応し、開示情報を拡充。さらに、開示の形式や情報発信ツールの改善も行った。**
- **今後は英文開示の拡充、サステナビリティ関連のKPI公表などに取り組む予定。**

	株主・投資家等からの質問・意見	当社の対応
英文情報開示	IR関連情報の英文開示の充実を図るべき。（東証の要請）	適時開示事項については、基本的には日英同時開示に対応。決算短信の英文開示にも対応。（2024年4月～）
株主還元の充実	配当性向の向上を目指してほしい。	上場以来、増配と配当性向の向上を継続。2024年11月期は業績進捗に合わせて期中に増配を決定、中期計画の目標であった配当性向25％を前倒しで達成する見込み。
サステナビリティ関連	気候変動関連情報の開示拡充に向けた取組みについて情報開示を積極化すべき。	統合報告書Vol.2を発行。非財務情報の開示を拡充。（2024年8月） サステナビリティ活動を推進するサステナビリティ推進部を新設し、対応力を強化。（2024年10月）
財務戦略	BS、資本効率を意識した経営を。	業績管理指標として部門別ROICの導入（2024年11月期より）

© Lacto Japan Co., Ltd.

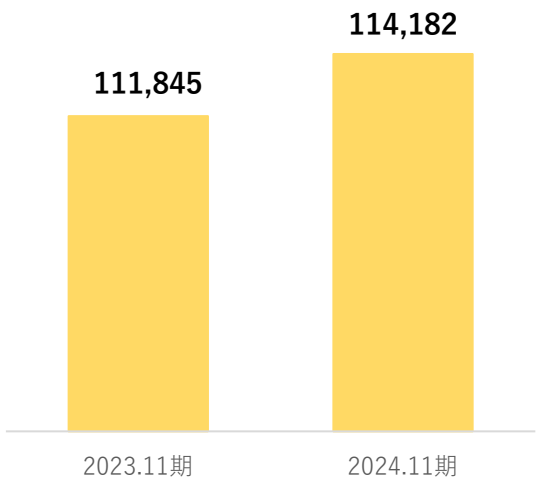
04 2024年11月期 事業の概況

© Lacto Japan Co., Ltd.

乳原料・チーズ部門

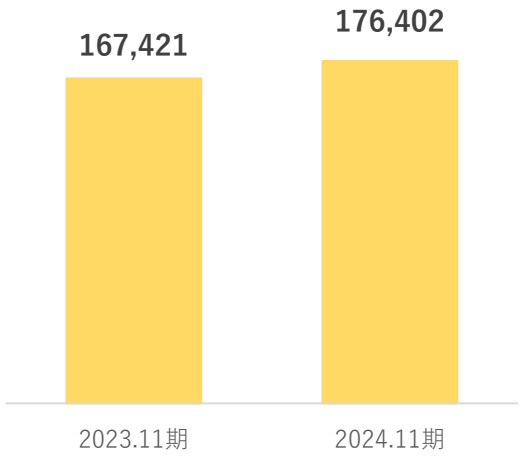
売上高

（単位：百万円）



販売数量

（単位：トン）



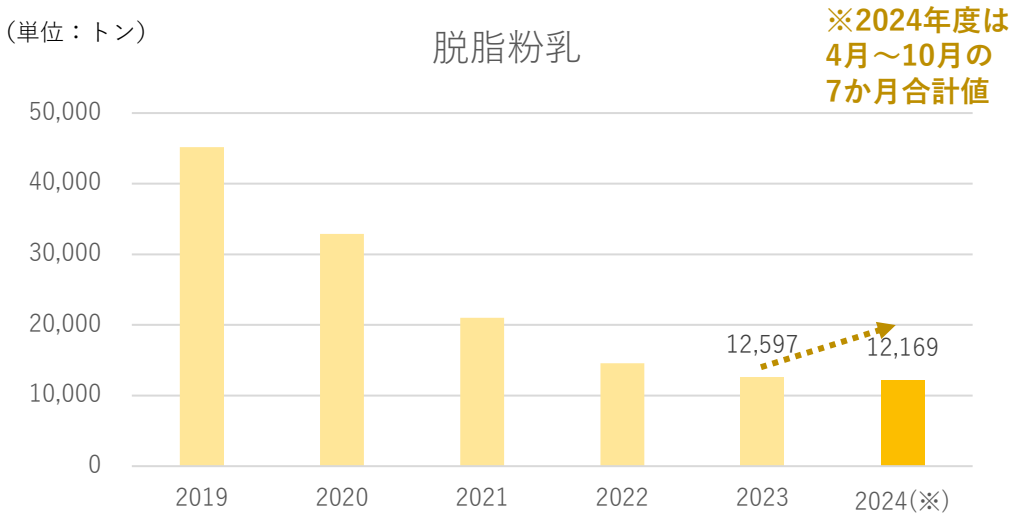
（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

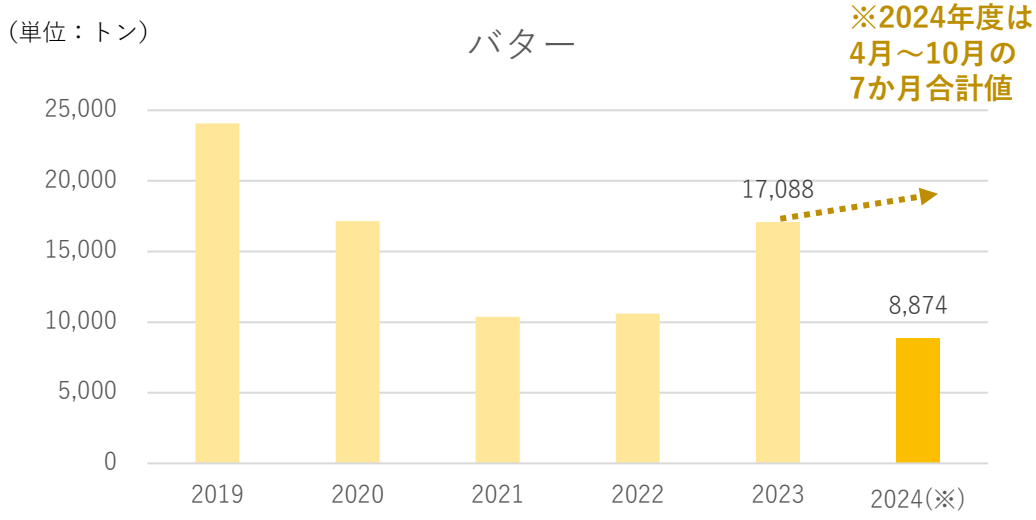
事業概況

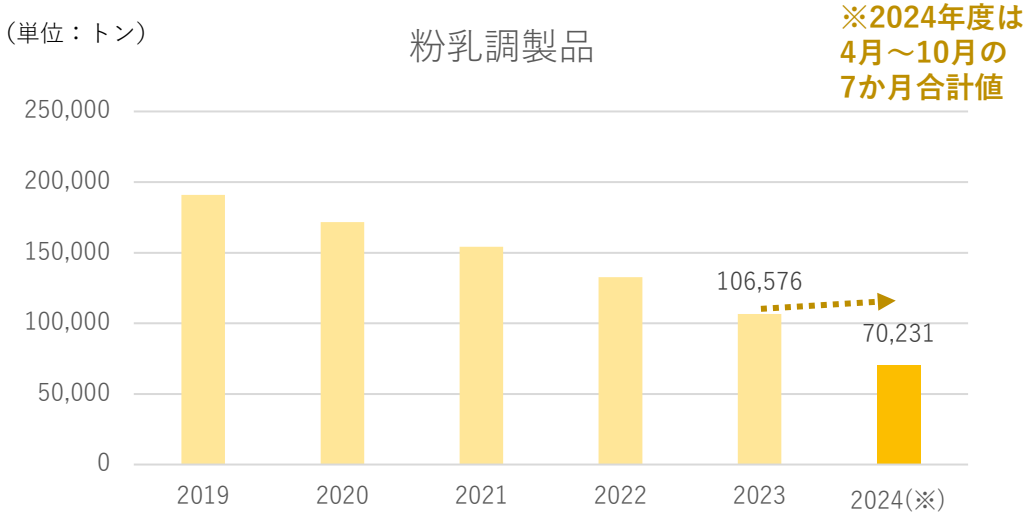
- レジャー産業や外食産業が活況となり、業務用の食品や土産物用の原料の需要が高まった。また、アイスクリーム用原料も前期に続き高需要。
- バター、クリームの需要が増加するなか、国産原料の供給に限りがあったことから、脂肪系乳原料の輸入品需要が好調に推移。
- 国産脱脂粉乳の在庫調整の進捗により、非乳業メーカーや飼料メーカー向けの粉乳原料の使用も回復した。
- チーズ販売では、値上げ影響により家庭用需要は低迷したものの、外食など業務用需要が旺盛。
- 主に販売数量の増加により売上高は前期比で増加した。

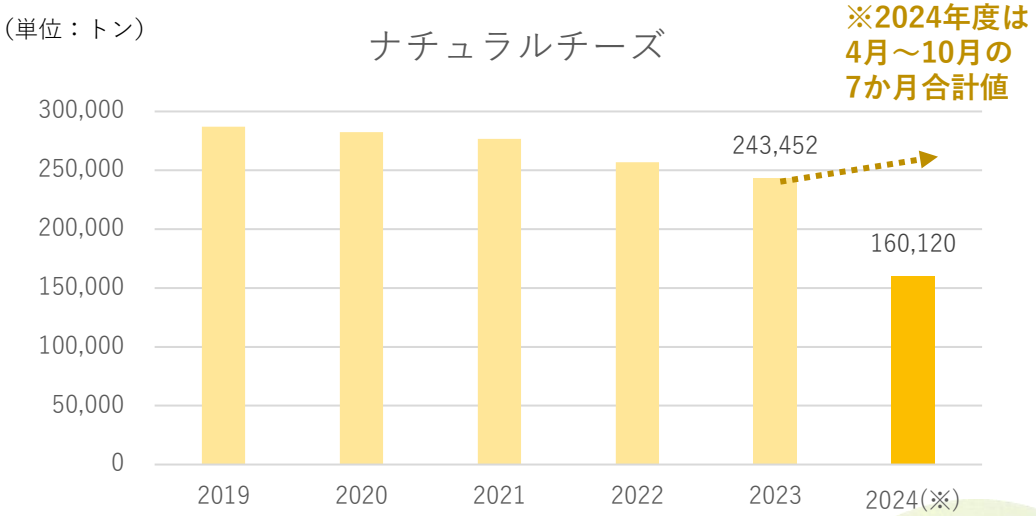
© Lacto Japan Co., Ltd.

日本における主な乳製品の輸入状況









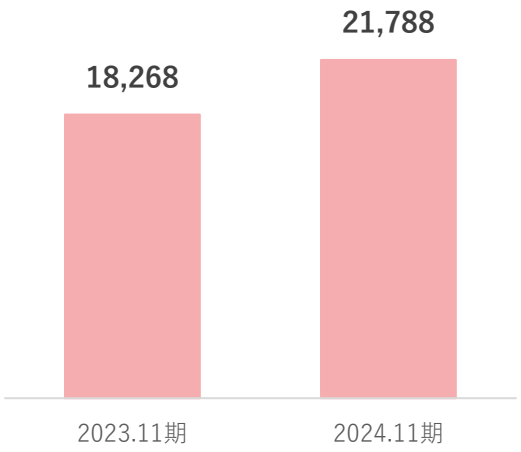
（出典）「主要な乳製品の輸入量の推移（年度）」Jミルク

© Lacto Japan Co., Ltd.

食肉食材部門

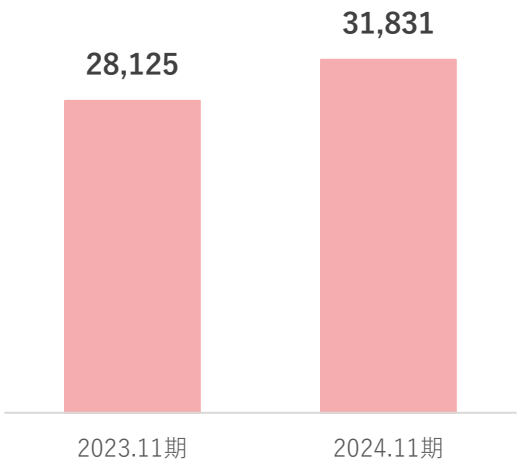
売上高

（単位：百万円）



販売数量

（単位：トン）



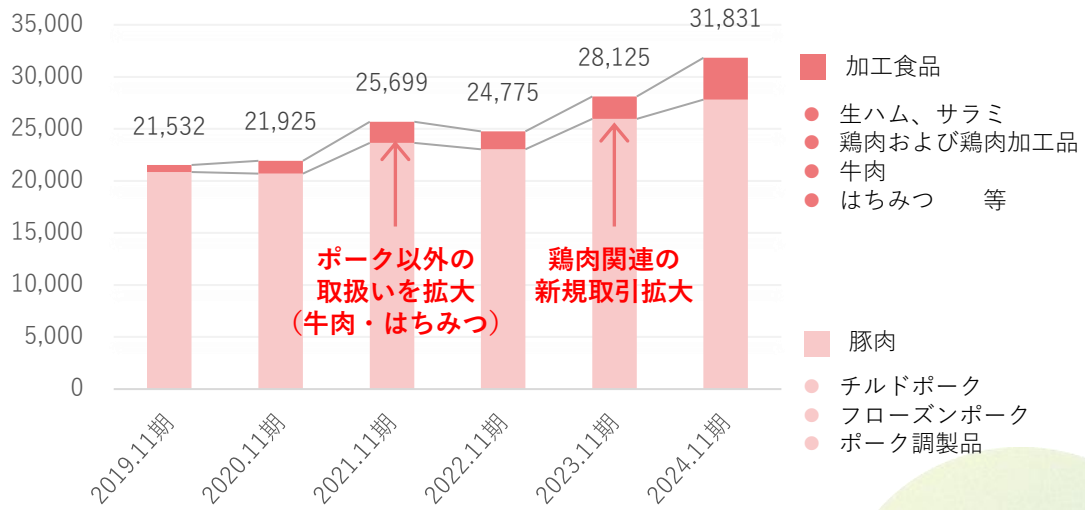
（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

事業概況

- 原料の国際相場高と円安の影響で国産肉との競争が激化。厳しい事業環境ながら、部門の販売数量は過去最高となった。
- 好調な豚肉販売に加えて、加工食品販売が伸長。当期は鶏肉および鶏肉加工品の販売が通年寄与。
- 豚肉の相場高、円安の影響から販売単価が高めに推移し、部門売上は前期比プラス。

食肉食材部門の販売数量

（単位：トン）

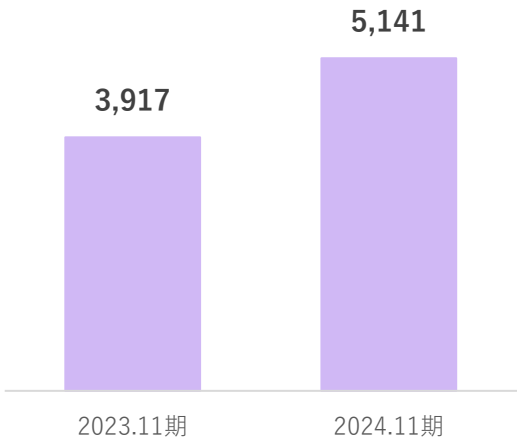


© Lacto Japan Co., Ltd.

機能性食品原料部門

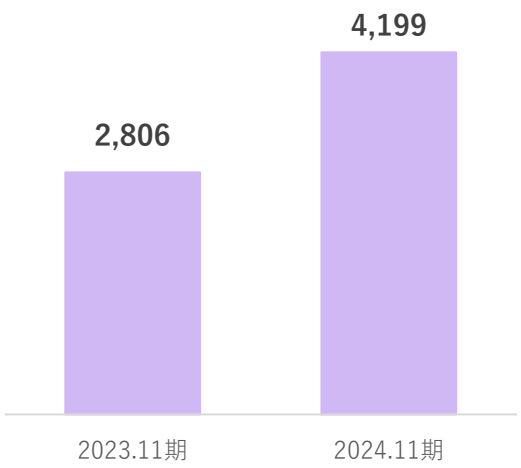
売上高

（単位：百万円）



販売数量

（単位：トン）



（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

事業概況

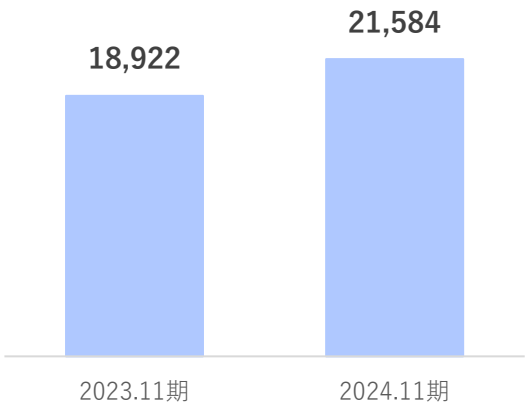
- プロテイン製品の原料となる乳たんぱくの販売が引き続き好調。スポーツ関連市場以外の用途も拡大。
- プロテイン製品原料の販売では、新規顧客の開拓が順調に進捗。新規参入のプロテインメーカーの新ブランド立ち上げをトータルにサポートするなど、新しいスタイルの事業展開で取引を拡大。
- 期初に計画していた植物由来原料などの販売には苦戦したが、プロテイン原料販売の好調により部門の売上高および販売数量は前期を上回って着地。
- 新たな取組みとして、アジアの販売網を活用し、機能性食品原料の日本からの輸出販売を開始。

© Lacto Japan Co., Ltd.

アジア・乳原料販売部門

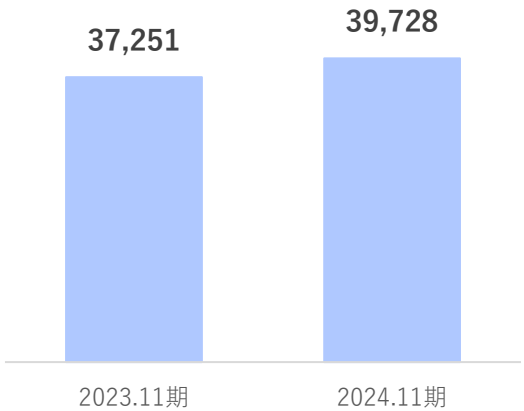
売上高

（単位：百万円）



販売数量

（単位：トン）



（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

事業概況

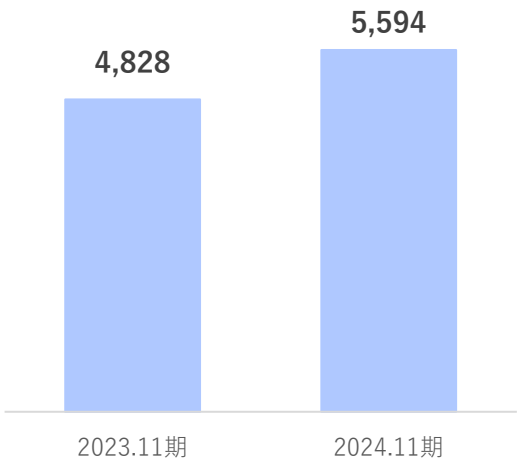
- 日本における粉乳調製品の需要底打ちを受け、関連の原料販売に回復の兆し。
- 日系企業向けの特別規格品の販売が好調に推移したほか、フィリピン、マレーシアで現地企業との新規取引も増加。
- インドネシア拠点においてトレーディング事業が本格稼働。
- 主に販売数量の増加により売上高は前期を上回った。

© Lacto Japan Co., Ltd.

アジア・チーズ製造販売部門

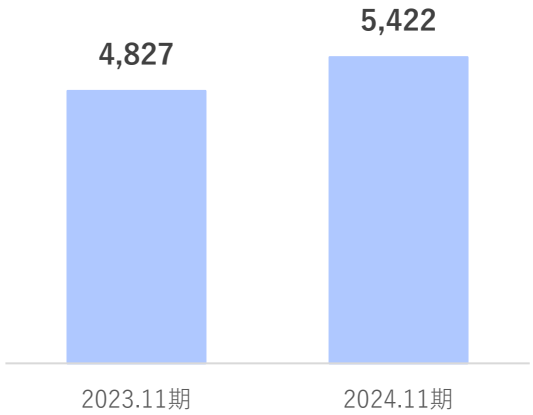
売上高

（単位：百万円）



販売数量

（単位：トン）



（注）売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。

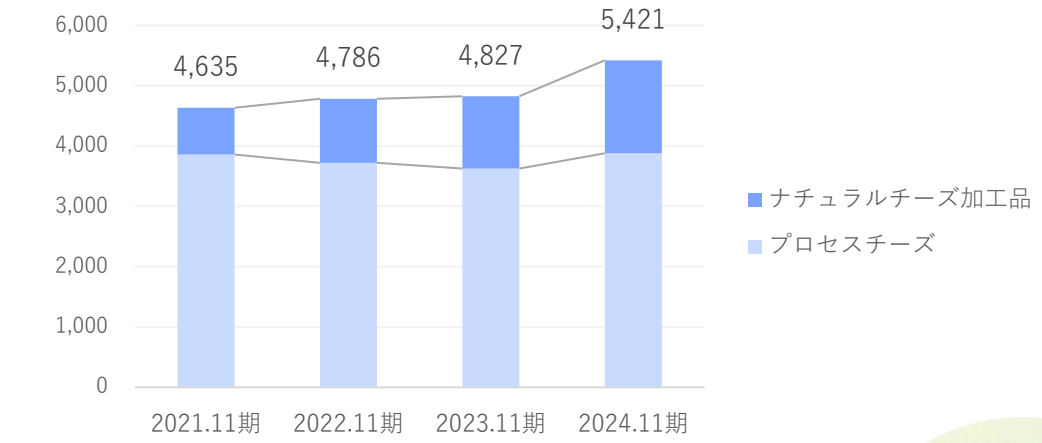
事業環境

■ 市場拡大が見込まれるナチュラルチーズの拡販に注力。主にシンガポール、マレーシアなどを中心に、外食向けにナチュラルチーズ加工品の販売が増加。

■ 外食やベーカリー向けでプロセスチーズの販売も回復傾向となった。原料チーズ相場の落ち着きや、製造量の増加による効率改善で利益貢献度も高まった。

アジア・チーズ製造販売部門　販売数量

（単位：トン）

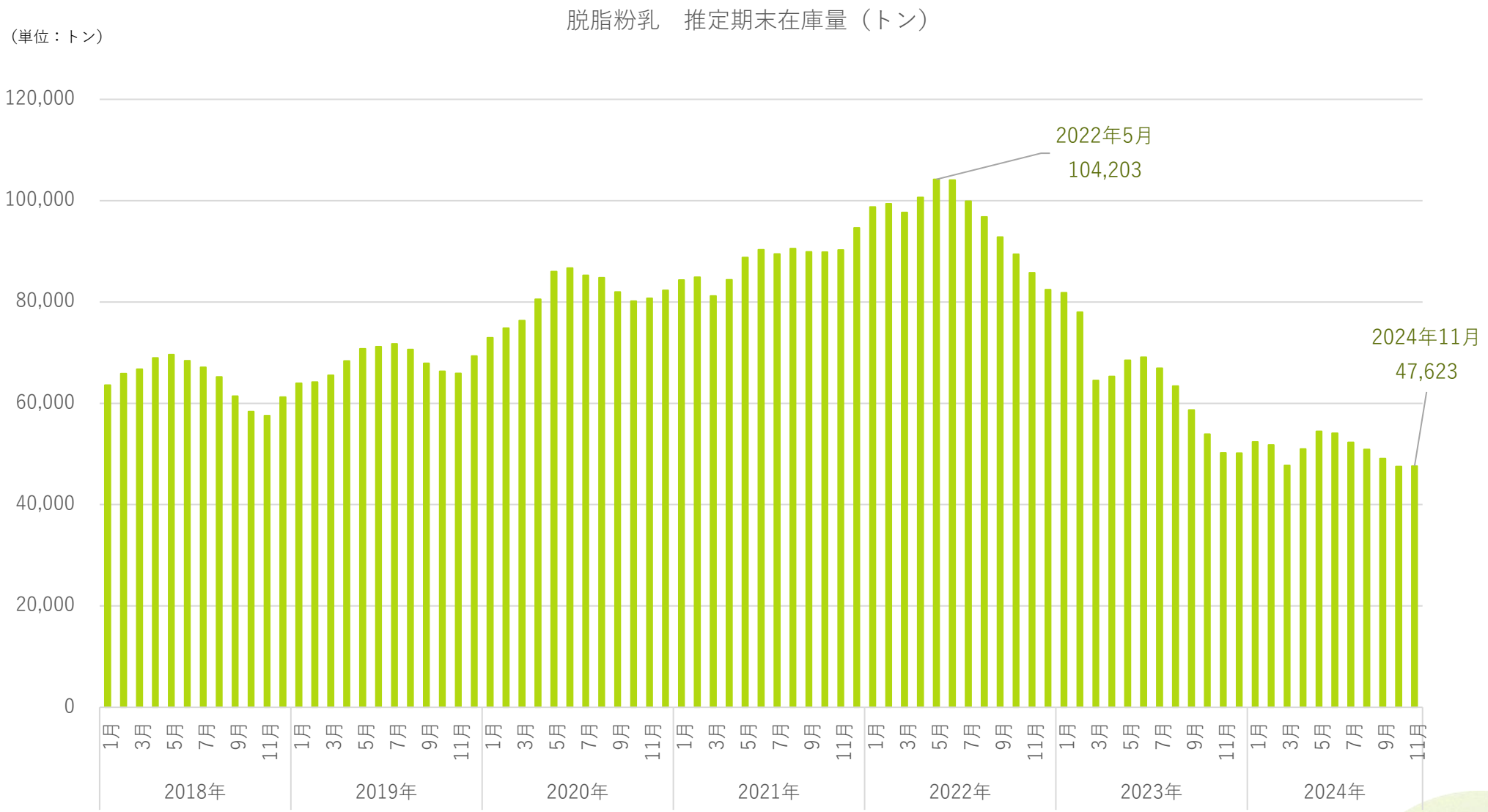


© Lacto Japan Co., Ltd.

05 事業環境　～乳原料販売の事業環境～

© Lacto Japan Co., Ltd.

●乳業メーカーを中心とした対策事業の継続と国内の需要回復により、脱脂粉乳在庫の調整が進捗



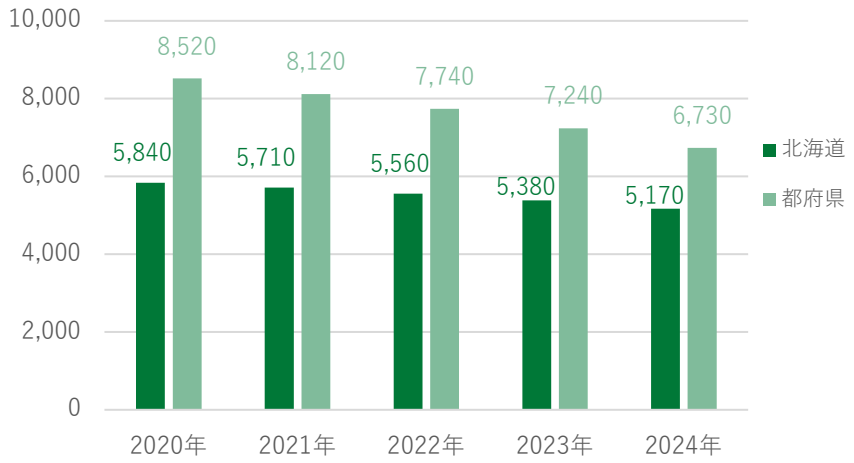
（出典）牛乳乳製品統計調査（農林水産省）より作成

© Lacto Japan Co., Ltd.

● 酪農業の生産コスト増により飼養戸数（酪農家数）、飼養頭数ともに減少傾向

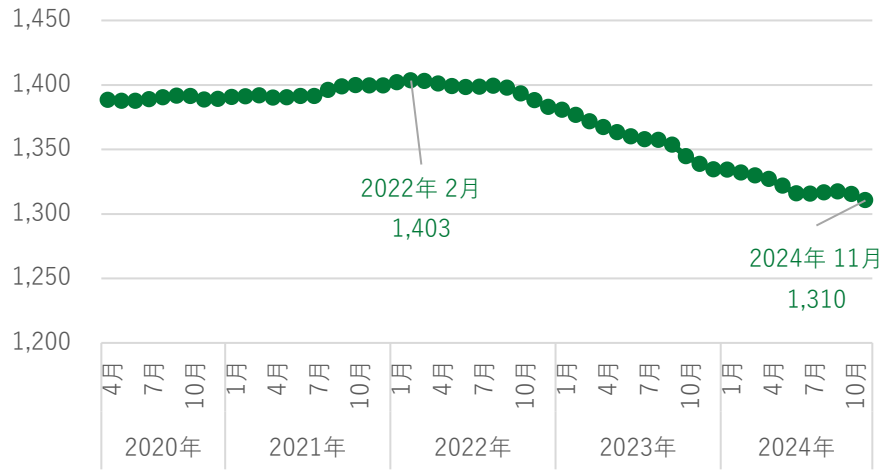
（単位：戸）

飼養戸数（乳用牛）



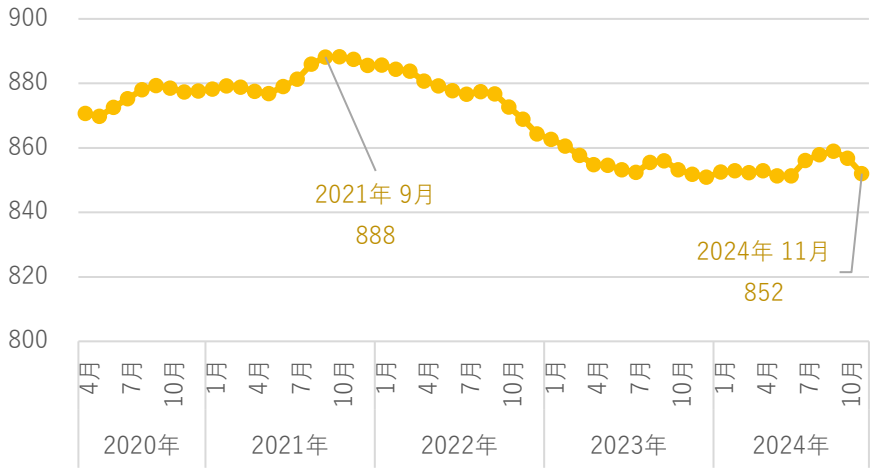
（単位：千頭）

飼養頭数（全国総計）



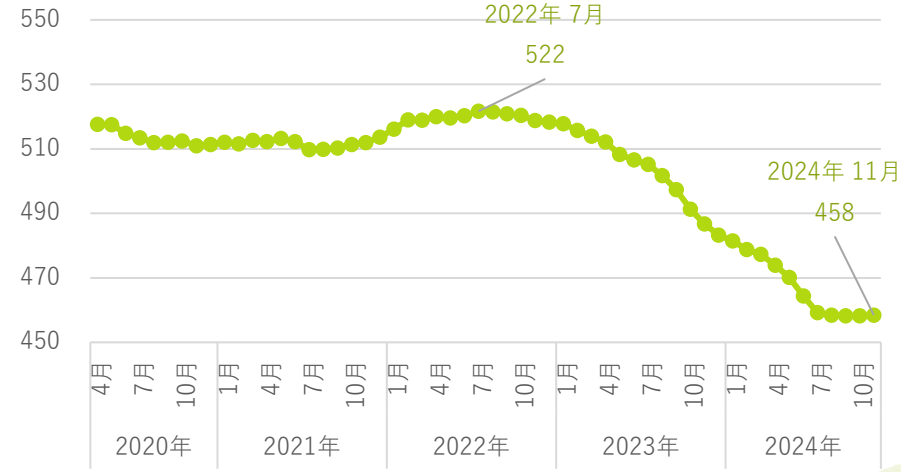
（単位：千頭）

飼養頭数（全国：2歳以上）



（単位：千頭）

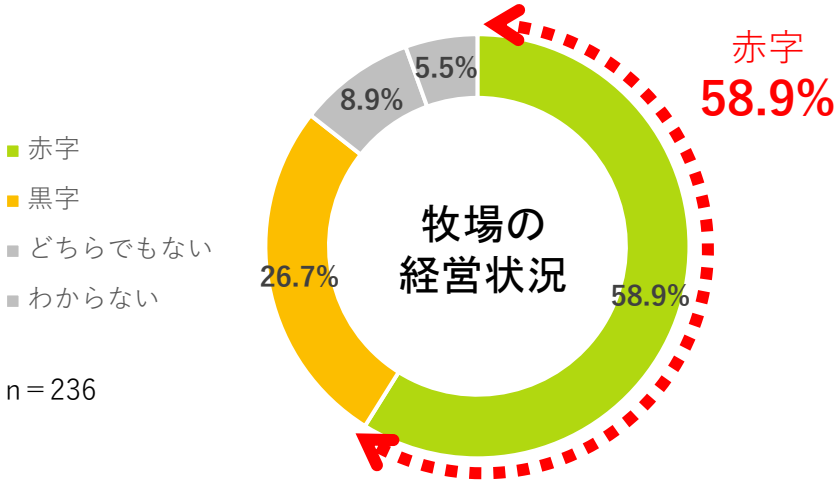
飼養頭数（全全国：0歳以上、2歳未満）

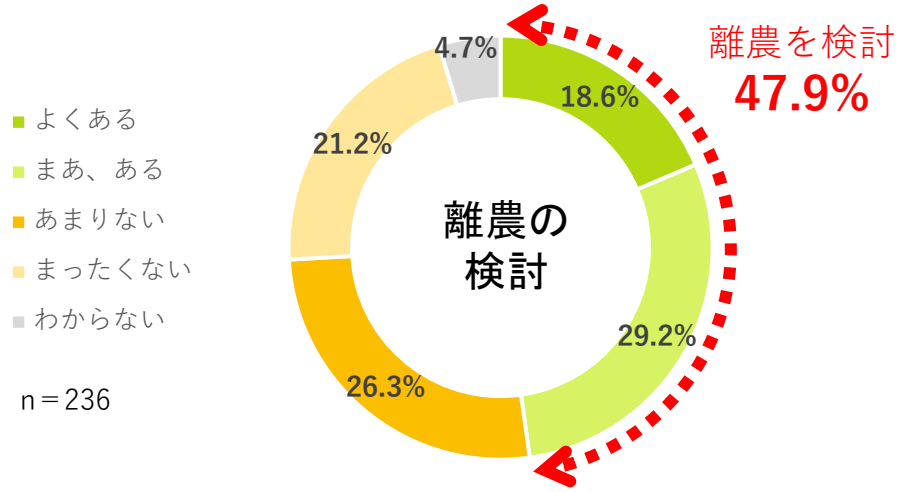


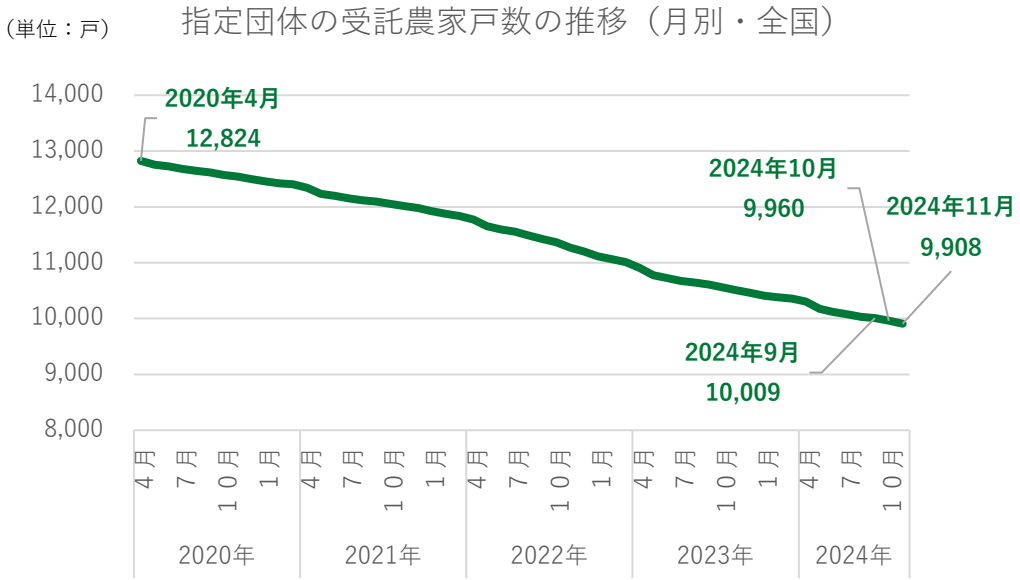
（出典）「年度別・県別・月齢別　乳用種（雌）の飼養頭数（2020年度～2024年度）」（Jミルク）より作成

© Lacto Japan Co., Ltd.

- 日本の酪農家の6割が赤字、半数が離農を検討
- 指定団体で受託している酪農家戸数が、2024年10月に初の１万戸割れ



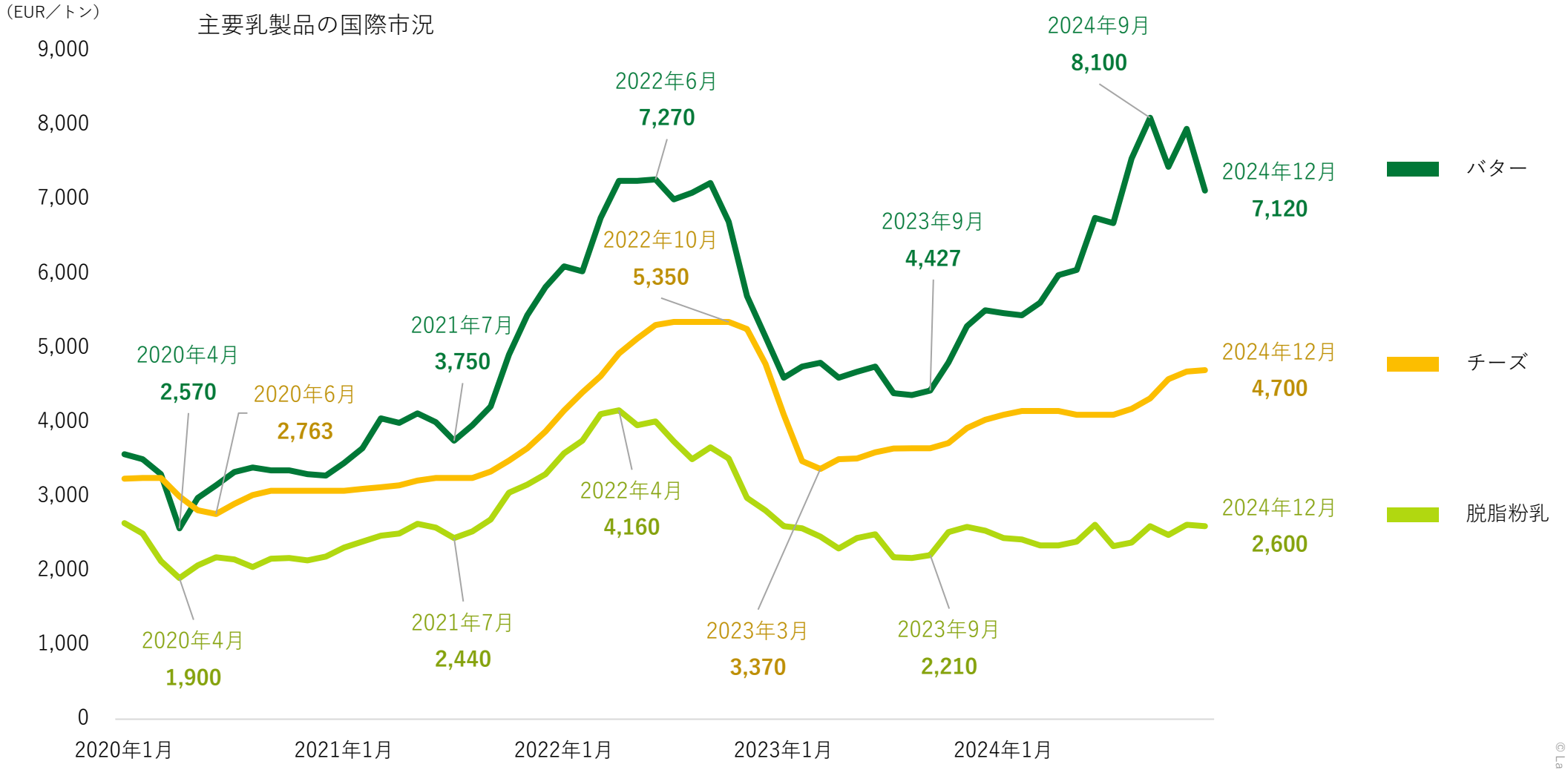




（出典）
「日本の酪農家の経営状況に関する調査」
調査主体：一般社団法人中央酪農会議
実施期間：2024年11月15日～11月25日
調査手法：アンケート（ネット・FAX）
調査対象：国内の酪農家236人

© Lacto Japan Co., Ltd.

2024年後半にかけてバターの国際市況が急騰、チーズ・脱脂粉乳は落ち着いた相場展開



（注） 脱脂粉乳・バター：オランダ公定価格（工場前価格）　　チーズ：ドイツ産エダムチーズ

© Lacto Japan Co., Ltd.

06 2025年11月期の取組み

© Lacto Japan Co., Ltd.

乳原料・チーズ部門

事業環境

- 輸入乳原料需要の本格回復を想定
- チーズをはじめ食品全般での価格改定の影響

取組み

- 需要増加が見込まれる高たんぱく原料、アイスクリーム用途の原料販売の強化
- 需要増加が見込まれる脂肪系乳原料の開発と販売を強化
- 利益率、CCCの改善でROIC向上を目指す
- 既存サプライヤーとの関係強化、新規サプライヤーの開拓により、さらなる調達力向上を目指す

（注） CCC： キャッシュ・コンバージョン・サイクル

© Lacto Japan Co., Ltd.

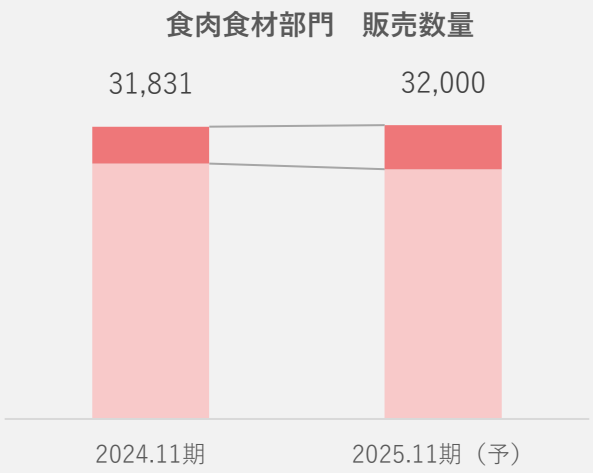
食肉食材部門

事業環境

- 米国産豚肉への需要継続を見込む
- 日本国内の加工食品の需要増加

取組み

- 米国サプライヤーとの連携を深め、商品力を強みとし豚肉の販売を拡大
- 加工食品販売を強化（主に鶏肉関連商品）
- 欧州の老舗香辛料メーカーの販売代理店ビジネスを今期より開始。
  既存事業とのシナジーを活かし、新規顧客の開拓に注力



- 加工食品
  - 生ハム、サラミ
  - 鶏肉および鶏肉加工品
  - 牛肉
  - はちみつ　　等
- 豚肉
  - チルドポーク
  - フローズンポーク
  - ポーク調製品

鶏肉加工品（当社製品）



© Lacto Japan Co., Ltd.

機能性食品原料部門

事業環境

- プロテイン製品の差別化ニーズの高まり
- アジア地域にも広がる「健康食品ブーム」

取組み

- プロテイン製品原料は原料の特性や形状、規格のバリエーションを広げ拡販を目指す
- 複数の機能性原料を組み合わせた複合提案を強化
  （プロテイン以外の機能性食品原料の取扱い拡大）
- ゼラチン・コラーゲンや植物由来原料などの拡販に取り組む
- 機能性原料のアジア市場への輸出・販売を本格化

© Lacto Japan Co., Ltd.

（参考）プロテイン製品開発の提案例





© Lacto Japan Co., Ltd.

アジア・乳原料販売部門

事業環境

- 日本における粉乳調製品需要の回復に期待
- 東南アジア各国において乳製品需要のさらなる回復・増加を見込む

取組み

- オセアニア産原料の販売強化
- 乳原料の現地販売体制を強化（インドネシア、タイ）
- 本社と連携し、機能性食品原料販売に挑戦

© Lacto Japan Co., Ltd.

アジア・チーズ製造販売部門

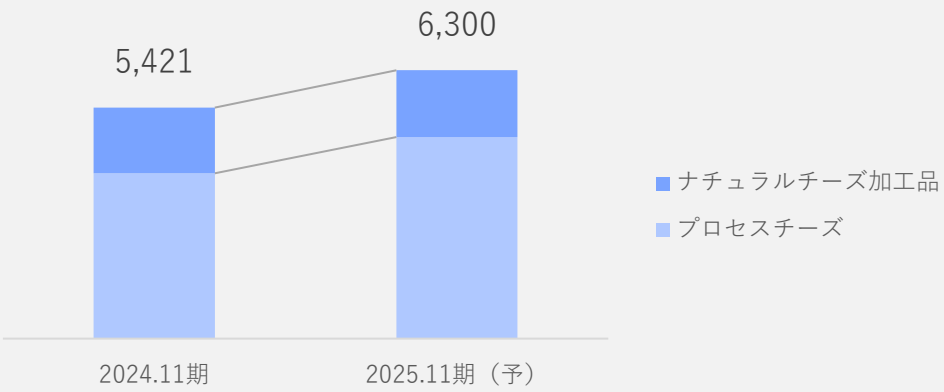
事業環境

- 日系外食チェーンのアジア展開が積極化
- 原料価格の低下により利益率は改善の見込み

取組み

- ナチュラルチーズ加工品の製造販売を強化
- 2026年11月期の新工場稼働に向けて新規顧客の開拓に注力
- 商品アイテムの見直しなどにより、製造効率の改善を目指す

アジア・チーズ製造販売部門　販売数量





ナチュラルシュレッドチーズ
（当社製品）

© Lacto Japan Co., Ltd.

（参考）シンガポール新工場の概要

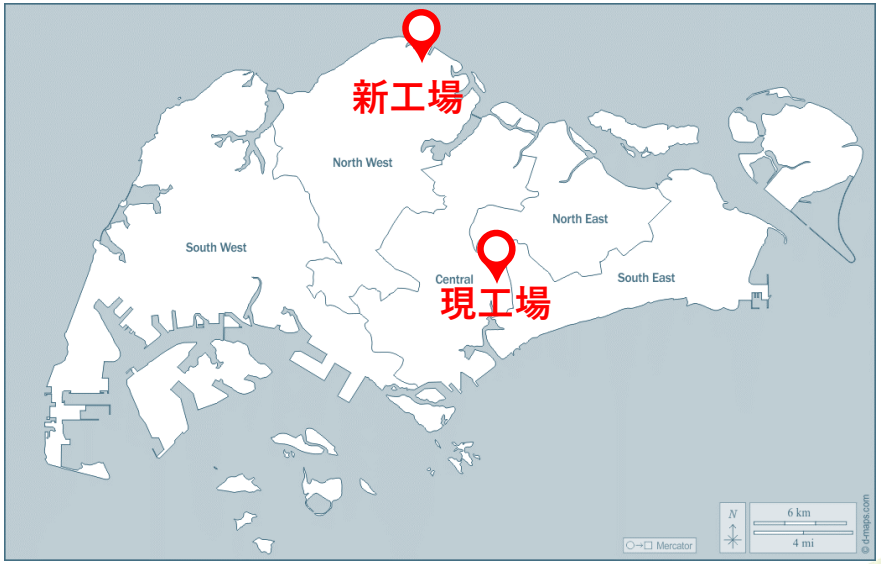
新工場　完成イメージ図



建設進捗状況（2025年1月）



建設進捗状況（2025年1月）



工場の概要

所　在　地	センバワン地区　セノコ
生　産　量	最大キャパシティ　1万トン
床　面　積	約6,500㎡
稼　働　開　始	2026年11月期～

© Lacto Japan Co., Ltd.

07 中期経営計画「NEXT-LJ 2025」の進捗状況

© Lacto Japan Co., Ltd.

- 2023年11月期～2025年11月期の3か年は、長期ビジョン達成のためのファーストステップとして成長に向けた基盤固めに注力

	Base 既存ビジネスの「進化」	Growth アジア事業の拡大	Challenge 次世代ビジネスの構築
事業成長	サプライソースの 多様化による安定供給	チーズ製造販売事業の拡大	機能性食品をはじめとした 新たな商材の開発
	ベストマッチングを生み出す コンサルティング営業	現地営業体制の強化 販売エリアの拡充	製造・加工の 川下分野の拡充
	日本産食材の輸出	宗教や多様な食文化に対応 した高付加価値製品の開発	酪農等の川上分野への関与
	M&A（海外トレーディングハウスの買収、同業他社の買収、事業提携など）		
経営基盤の強化	持続可能な酪農・畜産業への貢献 気候変動への適応および環境負荷を軽減するビジネス体制の構築		
	人材開発の強化 ／ ガバナンスの高度化 ／ 情報システム整備		

© Lacto Japan Co., Ltd.

基本方針に沿って各施策を着実に進捗

	Base 既存ビジネスの「進化」	Growth アジア事業の拡大	Challenge 次世代ビジネスの構築
進捗	サプライソースの多様化 ● 新規サプライヤーの開拓および既存サプライヤーとの連携強化に進展あり（乳原料） ベストマッチング ● 乳原料・チーズの輸入量が減少するなか、複数の商品でシェアが拡大 日本産食材の輸出 ● 機能性食品原料の輸出販売に着手	チーズ製造販売事業拡大 ● シンガポール新工場建設準備が進捗（2026年11月期稼働開始予定） ● 新工場立ち上げに向けて、工場間の連携強化 （タイ工場のバックアップ体制強化） 現地営業体制強化 ● インドネシア・タイの営業体制強化	新たな商材 ● 機能性食品原料販売事業の拡大 （原料商売に限らない事業の新展開） （アジア地域への輸出販売に着手）
継続課題	日本産食材の輸出 ● 輸出ビジネスの展開は引き続き模索中	チーズ製造販売事業拡大 ● 乳原料販売、チーズ製造販売ともにアジアの現地企業向け販売の拡大は引き続き課題	新たな商材 ● プロテイン原料以外の取扱い拡大 （植物由来原料、ゼラチン・コラーゲン等）

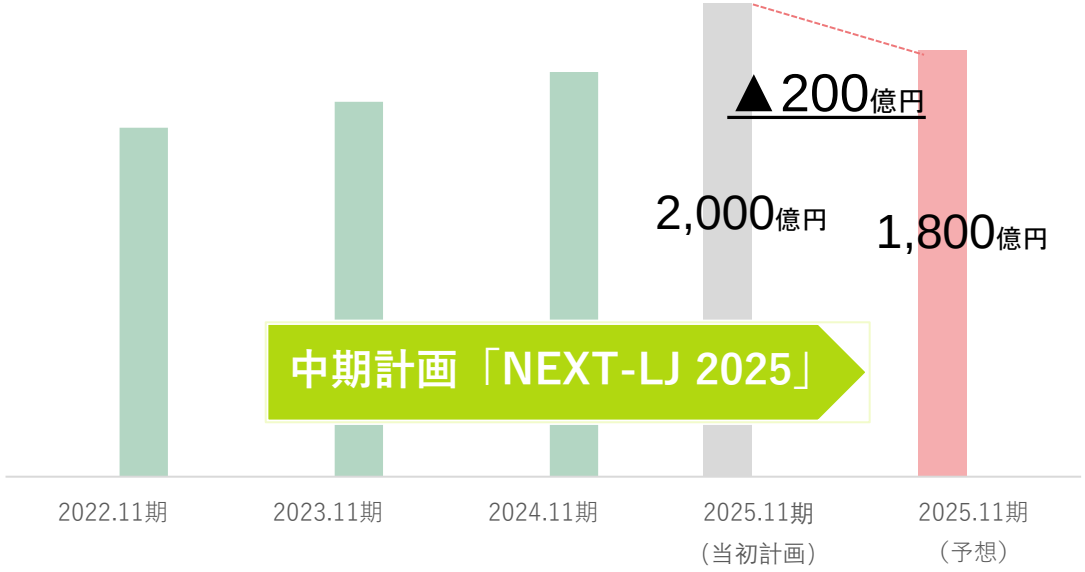
© Lacto Japan Co., Ltd.

● 中期計画「NEXT-LJ 2025」最終年度の業績目標を上方修正

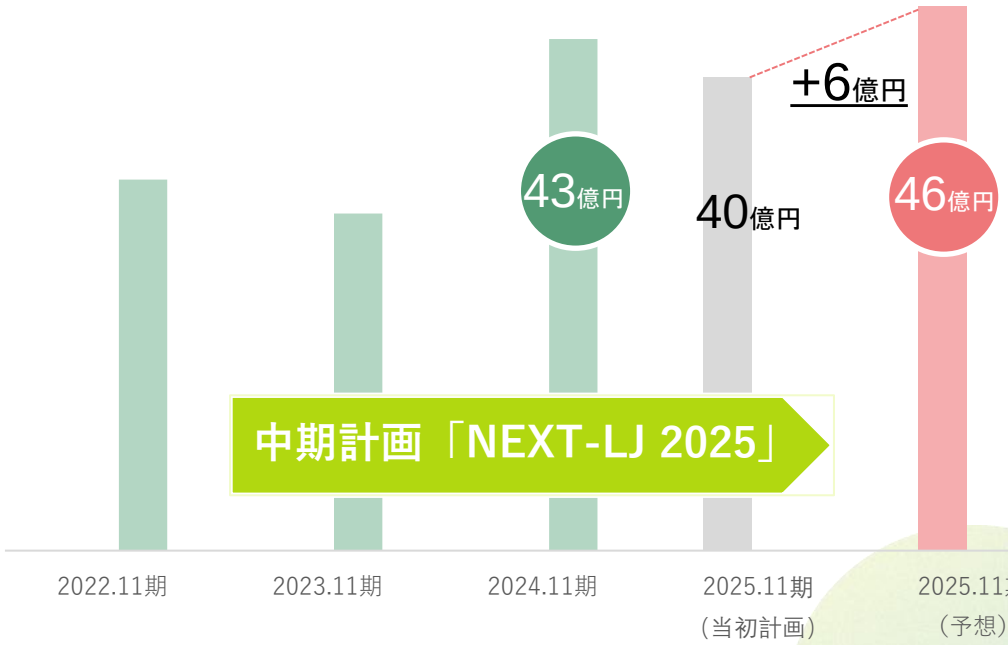
中期計画「NEXT-LJ 2025」

	2022.11期（実績）	2023.11期（実績）	2024.11期（実績）	2025.11期（当初計画）	2025.11期（予想）	2025.11期 目標修正額	2022.11期比
売上高（連結）	1,474億円	1,583億円	1,709億円	2,000億円	1,800億円	▲200億円	+22.1%
経常利益（連結）	31.3億円	28.5億円	43.2億円	40億円	46億円	+6億円	+46.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	22.9億円	20.5億円	31.5億円	29億円	33億円	+4億円	+44.3%

売上高（連結）



経常利益（連結）

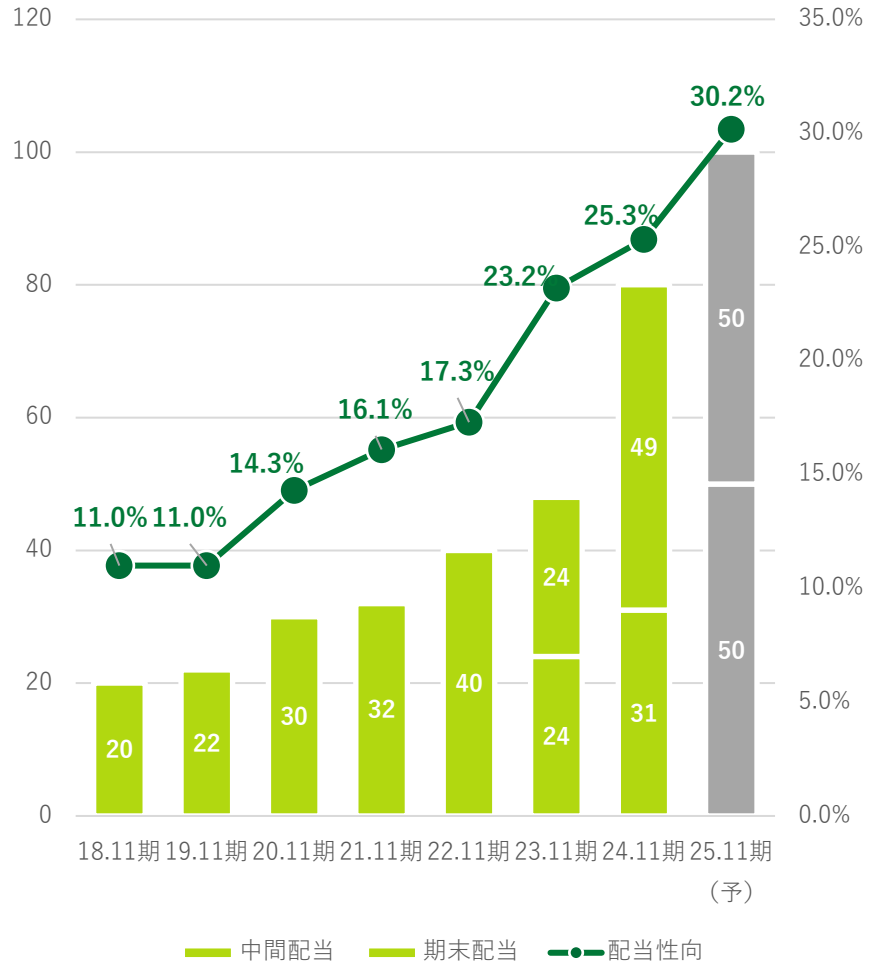


© Lacto Japan Co., Ltd.

● 株主還元策は配当金の増額を基本方針とし、引き続き配当性向の向上を目指す

配当金・配当性向の推移

（単位：円）



株主還元の方針

■ 株主の皆さまに対する適切な利益還元を重要な経営課題の一つと位置付けており、将来の成長のために必要な投資資金と内部留保を確保しつつ、配当性向の向上に取組むことを基本方針とする。

■ 事業成長を通じた利益の蓄積により財務基盤も相応に充実してきたことから、今期の配当金額は、長期の目標としていた「配当性向30%以上の実現」を前倒しで達成すべく、年間100円（うち、中間配当金は50円）とする予定。

（注）配当額は、2019年5月1日を効力発生日とした株式分割（普通株式1株を2株に分割）を考慮して記載

© Lacto Japan Co., Ltd.

ご注意事項

本資料には、当社の戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。

これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

経営環境の変化など、さまざまな要因により変更されることがあります。

あらかじめご了承ください。

© Lacto Japan Co., Ltd.


Lacto Japan